

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-342941

(43) 公開日 平成11年(1999)12月14日

(51) Int.Cl.⁶

B 6 5 D 17/44

識別記号

F I

B 6 5 D 17/44

審査請求 有 請求項の数 6 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願平10-147696

(22) 出願日 平成10年(1998) 5月28日

(71) 出願人 583080102

有限会社久能釣具店

岩手県釜石市甲子町第8地割300番地

(72) 発明者 久能 健一

岩手県釜石市甲子町第8地割300番地 有
限会社久能釣具店内

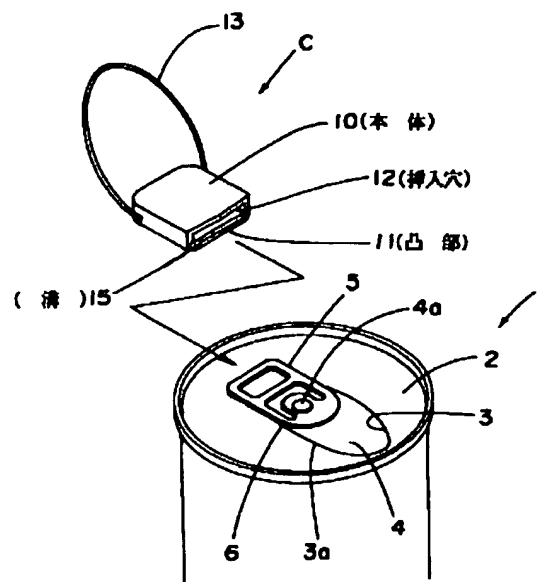
(74) 代理人 弁理士 丸岡 裕作

(54) 【発明の名称】 プルトップ缶用キャップ

(57) 【要約】

【課題】 プルトップ缶と別体にして製造を容易にしコストダウンを図るとともに、市販されている一般のプルトップ缶に予め装着可能にして別途用意しなくても即座に使用できるようにする。

【解決手段】 プルトップ缶1の開口3を覆う本体10と本体10に設けられ開口3に嵌合する凸部11とを備えて構成し、本体10と凸部11を本体10にプルトップ6のタブ5に挿入される挿入穴12を設けて構成し、可撓性樹脂で一体形成し、凸部11の外側に開口3の開口縁3aが挿入される溝15を設けて構成し、凸部11の溝15を開口3の開口縁3aにスライドして挿入しやすいように凸部11の端部を開口3の幅より小さい幅に形成し、挿入穴12の上面及び下面との間隔を中央に向けて縮小させた構成とし、本体10に指が通るリング状の紐13を備えた構成とした。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 蓋部に形成された開口を閉塞する閉塞体及び該閉塞体に係合され引き起こすことにより該閉塞体を上記開口から外して開けるタブからなるプルトップを有したプルトップ缶の上記開けられた開口を塞ぐプルトップ缶用キャップにおいて、上記開口を覆う本体と、該本体に設けられ上記開口に嵌合する凸部とを備えて構成し、上記本体に上記プルトップのタブに挿入される挿入穴を設けたことを特徴とするプルトップ缶用キャップ。

【請求項2】 上記本体及び凸部を可撓性樹脂で一体形成したことを特徴とする請求項1記載のプルトップ缶用キャップ。

【請求項3】 上記凸部の外側に上記開口の開口縁が挿入される溝を設けたことを特徴とする請求項1または2記載のプルトップ缶用キャップ。

【請求項4】 上記凸部の溝を上記開口の開口縁にスライドして挿入しやすいように該凸部の端部を開口の幅より小さい幅に形成したことを特徴とする請求項1、2または3記載のプルトップ缶用キャップ。

【請求項5】 上記挿入穴の上面及び下面との間隔を中央に向けて縮小させたことを特徴とする請求項1、2、3または4記載のプルトップ缶用キャップ。

【請求項6】 上記本体に指が通るリング状の紐を設けたことを特徴とする請求項1、2、3、4または5記載のプルトップ缶用キャップ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、主に清涼飲料やビール等の飲料が充填されるプルトップ缶用キャップに係り、特に、プルトップのタブを引き起こしてできる飲み口や注ぎ口となる開口を覆うプルトップ缶用キャップに関する。

【0002】

【従来の技術】 一般に、図12に示すように、例えば飲料用のプルトップ缶1は、蓋部2に形成された開口3を閉塞する閉塞体4及び閉塞体4にカシメ部4aを介して係合され引き起こすことによりこの閉塞体4を開口3から外して開けるタブ5からなるプルトップ6を有している。そして、プルトップ6のタブ5を引き起こすことにより開けられた開口3を飲み口や注ぎ口として、内部の飲料を飲んだり注いだりすることを可能にしている。ところで、近年、缶内の飲料を飲み残したような場合に、開口3からゴミが入ったり、開口3から飲料がこぼれたりしないようにするために、この開口3を塞ぐプルトップ缶用キャップが開発されている。従来、この種のプルトップ缶用キャップとしては、例えば、図13(a)

(b)に示すように、実開昭60-193021号公報に掲載されているものが知られている。このプルトップ缶用キャップCは、プルトップ6のタブ5で構成され、

このタブ5をプラスチックで形成し、開口3を塞ぐ閉塞部7を設けたものである。この閉塞部7は、タブ5の上側の外縁部8に段差を形成することにより、缶の開口3と同じ形状でその内径より少し大きめに形成され、図13(b)に示すように、プルトップ6を外して開口3を開けた後に、タブ5を反転させて閉塞部7を開口3に上から押し込んで開口3に嵌合させる。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 ところで、このような従来のプルトップ缶用キャップにあっては、プルトップ6のタブ5で構成され、缶と一体化しているため、逐一別途用意しておかなくても良いという利点はあるが、缶と一体化して製造しなければならないので、製造が困難であり、コストが高くなるという問題があった。また、缶と一体化して製造しなければならないので、これを設けない一般のプルトップ缶には使うことができないことから汎用性に劣るという問題があった。更にまた、一度使用したキャップを他の缶に再使用しにくいという問題もあった。

20 【0004】 本発明はこのような問題点を鑑みてなされたもので、プルトップ缶と別体にして製造を容易にしコストダウンを図るとともに、プルトップ缶に予め装着可能にして別途用意しなくても即座に使用できるようにし、市販されている一般のプルトップ缶に容易に適用でき、しかも、何度も再使用できるプルトップ缶用キャップを提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】 このような課題を解決するための本発明の技術的手段は、蓋部に形成された開口を閉塞する閉塞体及び該閉塞体に係合され引き起こすことにより該閉塞体を上記開口から外して開けるタブからなるプルトップを有したプルトップ缶の上記開けられた開口を塞ぐプルトップ缶用キャップにおいて、上記開口を覆う本体と、該本体に設けられ上記開口に嵌合する凸部とを備えて構成し、上記本体に上記プルトップのタブに挿入される挿入穴を設けた構成とした。

30 【0006】 プルトップ缶と別体にして容易に製造することができ、従来に比較してコストダウンを図ることができる。プルトップのタブに挿入穴を挿入してプルトップ缶に予め装着しておけば、キャップを別途用意しなくても即座に使用できるようになるので、極めて便利になる。また、市販されている一般のプルトップ缶に容易に適用でき、しかも、何度も再使用できるという効果がある。また、タブへの装着は、本体の挿入穴をタブに挿入するだけで良いので、プルトップ缶に容易に付帯させることができる。そして、凸部を開口に嵌合させて蓋をすれば、缶内部にゴミが入る事態を防止でき、清潔を保持することができ、また、缶を傾けたり倒したりした場合でも、内容物をこぼれにくくすることができ、

【0007】そして、必要に応じ、上記凸部及び本体を可撓性樹脂で一体形成した構成とした。アルトッ缶と別体で型成形されるので容易に大量生産ができ、コストダウンを図ることができる。また、必要に応じ、上記凸部の外側に上記開口の開口縁が挟入される溝を設けた構成とした。このことにより、凸部が確実に開口に嵌合するので、凸部の保持が確実になる。また、開口との隙間の形成が抑制され、そのため、ゴミを入りにくくすることができるとともに、内容物を漏れにくくすることができる。

【0008】そしてまた、必要に応じ、上記凸部の溝を上記開口の開口縁にスライドして挟入しやすいように該凸部の端部を開口の幅より小さい幅に形成した構成とした。凸部が開口から内部にスライドさせて挟入させることが容易となり、また開口から凸部を容易に外すことができ、操作性を向上させることができる。また、必要に応じ、上記挿入穴の上面及び下面との間隔を中央に向けて縮小させた構成とした。このことにより、タブを挿入穴に挿入したときに、タブを挟持することができ、そのため、タブに対する本体の保持を確実にすることができる。

【0009】そして、必要に応じ、上記本体に指が通るリング状の紐を設けた構成とした。これにより、タブに本体を装着させ、紐を引っ張るだけで、閉塞体を開けることができるので、タブを単に手で引き起こす場合に比較して、開け易くなる。また、タブが本体に挿入されているので、手にタブが触れることがなく、缶で手を切る等のけがが防止され安全が図られる。

【0010】

【発明の実施の形態】以下、添付図面に基づいて本発明の実施の形態に係るアルトッ缶用キャップについて詳細に説明する。尚、上記と同様のものには同一の符号を付して説明する。図1乃至図5に示すように、本発明の実施の形態に係るアルトッ缶用キャップCは、市販されている一般のアルトッ缶1に装着されるものである。一般に、アルトッ缶1は、上述したように、図1に示すように、例えば飲料用のアルトッ缶1においては、蓋部2に形成された開口3を閉塞する閉塞体4及び閉塞体4に連係され引き起こすことによりこの閉塞体4を開口3から外して開けるタブ5からなるアルトッ

缶6を有している。アルトッ缶6は、図示したように、蓋部2にカシメ部4aを介して取り外し不能にしたタイプのものと、図示はしないが、蓋部2から取り外されるタイプのものとがある。実施の形態に係るアルトッ缶用キャップCは、いずれのタイプにも適用可能である。そして、アルトッ缶6のタブ5を引き起こすことにより開けられた開口3を飲み口や注ぎ口として、内部の飲料を飲んだり注いだりすることを可能にしている。

【0011】本発明の実施の形態に係るアルトッ缶用

開口3の上を覆う本体10と、開口3に嵌合する凸部11とを備えている。本体10は、例えば厚さ4mm程度の扁平に形成され、缶の開口3面積よりも僅かに大きい面積を有して缶の開口3を覆う大きさに形成されている。また、本体10は、箱形に形成され、前部から後部に向けてタブ5を挿入するための挿入穴12が設けられている。本体10の上面10a及び底面10bは前部の中央に向けてわずかに凹んでいる。挿入穴12は、タブ5のおよそ5〜7割程を差し込むことができる大きさで、その上面12a及び下面12bとの間隔Dは、中央に向けて漸次縮小させられて形成されている。挿入穴12の中央の間隔Dは、タブ5の厚さよりわずかに狭いが、可撓性樹脂で形成されているので、タブ5に挿入可能であり、挿入状態では、タブ5は上面12a及び下面12bの中央で挟持される。

【0012】また、本体10の後部には指が入るほどの大きさのリング状の紐13が設けられ、タブ5に挿入された本体10を引っ張ってタブ5を引き起こして閉塞体4を開口3から外すことを可能にしている。紐13は、ビニールなどの樹脂製であり、両側面の後部側に設けられ挿入穴12に貫通する小穴14に通され、挿入穴12の内部で結ばれあるいは溶着されてリング状となっている。この紐13は、タブ5に挿入された本体10を引っ張ってタブ5を起こすことができる強度のものであれば樹脂製に限らずどのような材質のもので良い。

【0013】凸部11は、缶の開口3に嵌合する一枚板状に形成されている。図10及び図11に示すように、凸部11の外側周縁11aには、開口3の開口縁3aが挟入される溝15が形成されている。また、図4に示すように、この凸部11の溝15を開口3の開口縁3aにスライドして挟入しやすいようにするために、凸部11の前端部11b及び後端部11cが、開口3の幅より小さい幅に形成されている。詳しくは、図4に示すように、前端部11b及び後端部11cのコーナ部が、アール状に面取り形成されている。また、前端部11b及び後端部11c側の溝15の中央には、蓋部2にカシメ部4aを介して取り外し不能にしたタイプのアルトッ缶6において、カシメ部4aが挿入され、溝15の幅が一般部の幅よりも大きく形成された大幅部16が形成されている。

【0014】従って、本発明の実施の形態に係るアルトッ缶用キャップCを製造するときは、工場等で別途製造される。この製造は、型枠に樹脂を流して一体成形する。その後、側面の後部側に設けた挿入穴12に貫通する小穴14に、樹脂製の紐13を通して結びあるいは溶着して、結び目あるいは溶着部が挿入穴12内に位置するようにする。このアルトッ缶用キャップCは、別体で型成形されるので容易に大量生産ができ、コストダウンを図ることができる。

【0015】このように製造されたアルトッ缶用キャ

resin

ップCは、アルトッ缶1に工場等で予め装着され、あるいは、使用するときその都度装着される。この装着は、図6及び図7に示すように、本体10の挿入穴12をアルトッ缶6のタブ5に挿入して行なう。この場合、挿入するだけで良いので、アルトッ缶1に容易に付帯させることができる。また、装着させた状態では、本体10の挿入穴12の上面12a及び下面12bとの間隔が中央に向けて縮小させられているので、タブが挟持され、そのため、タブに対する本体10の保持が確実になる。このアルトッ缶用キャップCを、工場等で予めアルトッ缶1に装着しておけば、アルトッ缶用キャップCを別途用意しなくても即座に使用でき、煩雑さが解消される。また、市販されている一般のアルトッ缶に容易に適用でき、しかも、何度も再使用できる。

【0016】次に、本発明の実施の形態に係るアルトッ缶用キャップCを用いて、アルトッ缶1のアルトッ缶6を開ける場合を説明する。今、アルトッ缶1として、アルトッ缶6が蓋部2にカシメ部を介して取り外し不能にしたタイプのもので説明すると、以下のようになる。まず、缶の蓋部2に装着されているアルトッ缶用キャップCの紐13を指でつまみ、図8に示すように、上方に引き上げる。これにより、タブ5が引き起こされ、これに連係して閉塞体4が蓋部2の内側に折れ曲がり開口3が形成される。尚、開口3を開けた状態では、一般に、閉塞体4がカシメ部4aから離間して位置し、カシメ部4aのみが開口3に突出する。この場合、紐13を引くだけで、閉塞体4を開けることができるので、タブ5を単に手で引き起こす場合に比較して、開け易くなる。また、タブ5が本体10に挿入されているので、手にタブ5が触れることがなく、缶で手を切る等のけがが防止され安全が図られる。

【0017】そして、アルトッ缶用キャップCをタブ5に装着したまま、あるいは、タブ5をカシメ部4aから折取って、開けられた開口3を飲み口や注ぎ口として、内部の飲料を飲んだり注いだりする。タブ5をカシメ部4aから折取る場合には、タブ5に本体10を挿入したまま、本体10をカシメ部4aを支点にして手で揺動させれば良い。この時、本体10を介してタブ5を揺動させるので、手にタブ5が触れることがなく、缶で手を切る等のけがが防止され安全が図られる。

【0018】その後、缶に飲料が残ったような場合には、図9乃至図11に示すように、アルトッ缶用キャップCで開口3に蓋をすれば良い。このとき、タブ5から本体10を抜いて使用し、あるいは、図示しないが、タブ5をカシメ部4aから折取った場合には、タブ5が本体10に差し込まれたまま使用する。この使用の際には、まず、閉塞体4を開けて設けられた開口3に、アルトッ缶用キャップCの凸部11の前端部11bまたは後端部11cを開口3に差し込み、開口3の開口縁3aを溝15に挟み込み、溝15を開口縁3aにスライドさせ

ながら、凸部11を開口縁3aの奥まで挟み込み、凸部11を開口に嵌合させる。この場合、凸部11の端部を開口3の幅より小さい幅に形成され、即ち、コーナ部がアール状に面取り形成されているので、凸部11の溝15を開口3の開口縁3aに挟み込み易くなる。図9乃至図11に示すように、嵌合させた状態では、開口3の開口縁3aが溝15に挟み込まれる。また、カシメ部4aが開口3に突出しているが、アルトッ缶用キャップCの溝15には大幅部16が形成されているので、このカシメ部4aも大幅部16に挟み込まれる。そのため、凸部11の保持が確実になる。

【0019】このように、アルトッ缶用キャップCで開口3を塞いだ状態では、開口3から缶内部にゴミが入る事態が防止され、清潔が保持される。また、缶を傾けたり倒したりした場合には、開口3が凸部11で塞がれているので、飲料がこぼれる事態が抑止される。この場合、開口3の開口縁3aが凸部11の溝15に挟み込まれているので、隙間の形成が抑制され、そのため、飲料が漏れにくくなる。次に、再び缶内部の飲料を飲んだり注いだりするときは、アルトッ缶用キャップCを、上に引張って開口3から外せば良い。

【0020】尚、上記実施の形態において、本体10の形状は上述したものに限定されるものではなく、種々の形状としてもよい。また、前端部から後端部に向けて挿入穴12を設けたが、必ずしもこれに限定されず、どの側面に設けてもよい。尚また、アルトッ缶用キャップCの材質を可撓性樹脂としたが、これに限定されるものではなく、金属や木などのような材質のものを用いて形成しても差し支えない。但し、樹脂で成形した方が、加工が容易で、取扱いも容易であり望ましい。また、アルトッ缶は飲料用のものに限定されるものではなく、どのようなアルトッ缶であっても、本発明のキャップを適用できることは勿論である。

【0021】

【発明の効果】以上説明したように、本発明のアルトッ缶用キャップによれば、アルトッ缶の開口を覆う本体と本体に設けられ開口に嵌合する凸部とを備え、本体にアルトッ缶のタブに挿入される挿入穴を設けた構成としたので、アルトッ缶と別体にして容易に製造することができ、従来に比較してコストダウンを図ることができるとともに、アルトッ缶のタブに挿入穴を挿入してアルトッ缶に予め装着しておけば、キャップを別途用意しなくても即座に使用できるようになるので、極めて便利になる。また、市販されている一般のアルトッ缶に容易に適用でき、しかも、何度も再使用できるという効果がある。また、タブへの装着は、本体の挿入穴をタブに挿入するだけで良いので、アルトッ缶に容易に付帯させることができる。そして、凸部を開口に嵌合させて蓋をすれば、缶内部にゴミが入る事態を防止でき、清潔を保持することができ、また、缶を傾けたり倒したりし

た場合でも、内容物をこぼれにくくすることができる。

【0022】また、本体及び凸部を可撓性樹脂で一体形成した場合には、アルトッ缶と別体で型成形されるので容易に大量生産ができ、コストダウンを図ることができる。更に、凸部の外側に開口の開口縁が挟入される溝を設けた場合には、凸部が確実に開口に嵌合するので、凸部の保持が確実になる。また、開口との隙間の形成が抑制され、そのため、ゴミを入りにくくすることができる。更にまた、凸部の溝を開口の開口縁にスライドして挟入し、

【0023】また、本体に指が通るリング状の紐を設けた場合には、タブに本体を装着させ、紐を引くだけで、閉塞体を開けることができるので、タブを単に手で引き起こす場合に比較して、開け易くなる。特に、子供や老人など、手の力が弱い人にとっては極めて便利になる。また、タブが本体に挿入されているので、手にタブが触れることがなく、缶で手を切る等のけがが防止され安全が図られる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施の形態に係るアルトッ缶用キャップをアルトッ缶とともに示す斜視図である。

【図2】本発明の実施の形態に係るアルトッ缶用キャップを示す正面図である。

【図3】本発明の実施の形態に係るアルトッ缶用キャップを示す側面図である。

【図4】本発明の実施の形態に係るアルトッ缶用キャップを示す底面図である。

【図5】本発明の実施の形態に係るアルトッ缶用キャップを示す横断面図である。

【図6】本発明の実施の形態に係るアルトッ缶用キャップをタブに装着した状態を示す斜視図である。

【図7】本発明の実施の形態に係るアルトッ缶用キャップをタブに装着した状態を示す断面図である。

【図8】本発明の実施の形態に係るアルトッ缶用キャップを用いて開口を開けた状態を示す斜視図である。

【図9】本発明の実施の形態に係るアルトッ缶用キャップを用いて開口に蓋をした状態を示す斜視図である。

【図10】本発明の実施の形態に係るアルトッ缶用キャップを用いて開口に蓋をした状態を示す断面図である。

【図11】本発明の実施の形態に係るアルトッ缶用キャップを用いて開口に蓋をした状態を示す別の断面図である。

【図12】本発明の実施の形態に係るアルトッ缶用キャップが適用されるアルトッ缶の一例を示す部分斜視図である。

【図13】従来のアルトッ缶用キャップの一例をアルトッ缶とともに示す図であり、(a)使用前の状態を示す断面図、(b)は使用中の状態を示す断面図である。

【符号の説明】

C アルトッ缶用キャップ

1 アルトッ缶

2 蓋部

3 開口

3a 開口縁

4 閉塞体

4a カシメ部

5 タブ

6 アルトッ

10 本体

10a 上面

10b 底面

11 凸部

11a 外側周縁

11b 前端部

11c 後端部

12 挿入穴

12a 上面

12b 下面

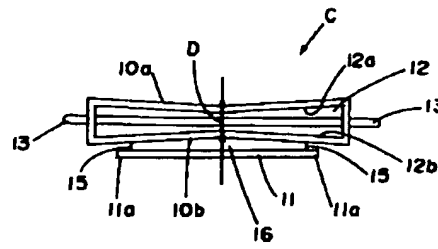
13 紐

14 小穴

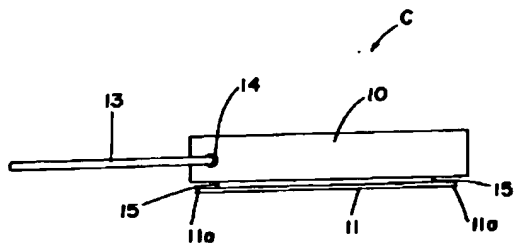
15 溝

16 大幅部

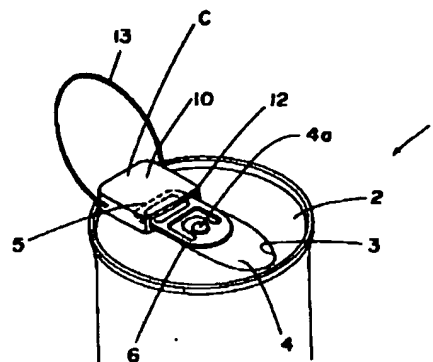
【图2】



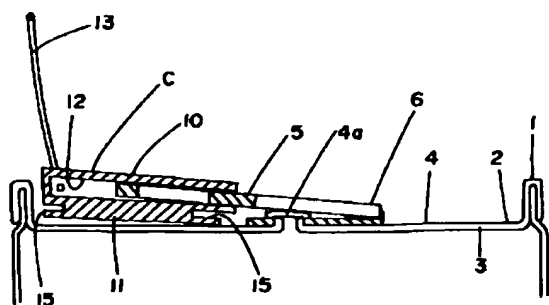
【図3】



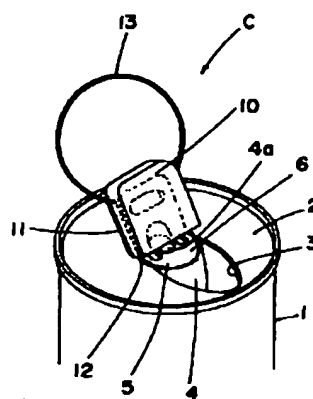
【図6】



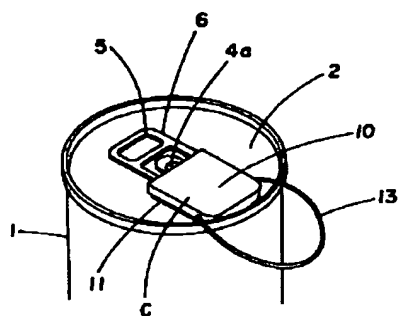
【図7】



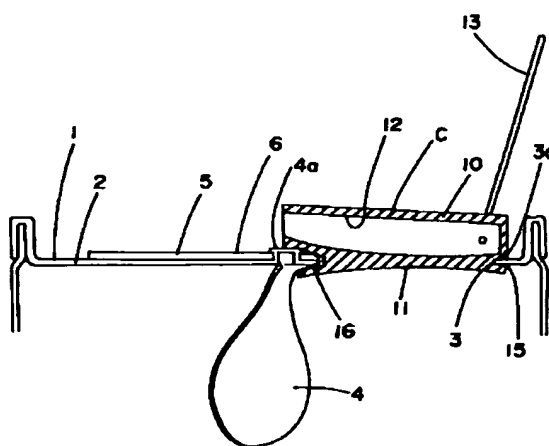
【図8】



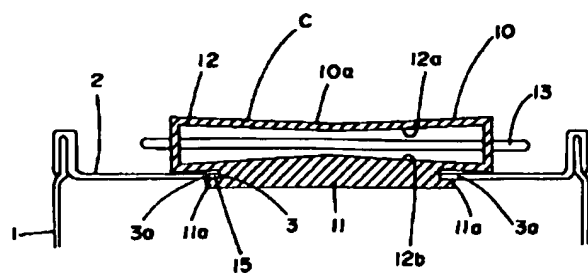
【図9】



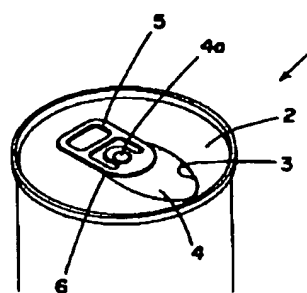
【図10】



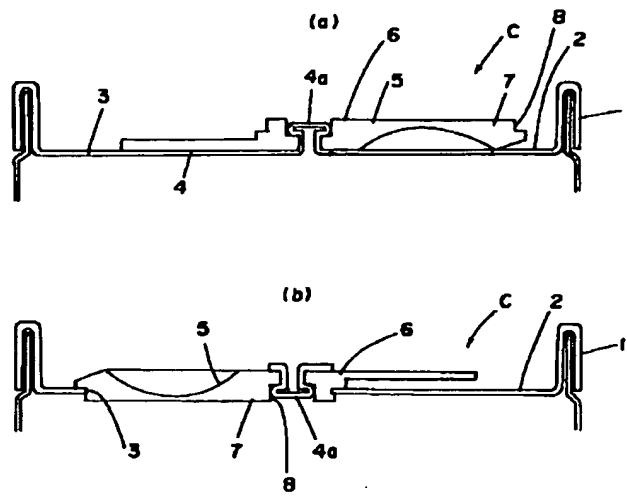
【図11】



【図12】



【図13】



PAT-NO: JP411342941A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 11342941 A
TITLE: CAP FOR PULL-TOP CAN
PUBN-DATE: December 14, 1999

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
KUNO, KENICHI	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
KUNO TSURIGUTEN:KK	N/A

APPL-NO: JP10147696

APPL-DATE: May 28, 1998

INT-CL (IPC): B65D017/44

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To make a cap independent of a pull-top can, thereby facilitating production and reducing costs and to make the cap pre-attachable to the commercially available, ordinary pull-top can, thereby making it possible to use it instantly without providing it separately.

SOLUTION: The cap comprises a main body 10 for covering the opening 3 of a pull-top can 1, and a projection 11, provided for the main body 10, which engages with the opening 3. The main body 10 and projection 11 are formed so that an insertion hole 12 into which the tab 5 of a pull-top is inserted is

made in the main body 10, and are integrally formed out of a flexible resin. A groove 15 into which the open edge 3a of the opening 3 is inserted is formed in the outside of the projection 11. The end of the projection 11 is formed smaller in width than the opening 3 so that the groove 15 of the projection 11 is slid and held inside the open edge 3a of the opening 3. A space between the top and bottom of the insertion hole 12 is made smaller toward the middle. The main body 10 is provided with a ring-like cord 13 into which a finger is insertable.

COPYRIGHT: (C)1999, JPO